

表9 オキナワフグによるタイワンガザミの全甲幅別の食害状況

全甲幅 (mm)	生残数	生残率	食害数	食害率	計
10-20	5	0.33	10	0.67	15
20-30	15	0.42	21	0.58	36
30-40	16	0.73	6	0.27	22
40-45	4	0.80	1	0.20	5
計	40		38		78

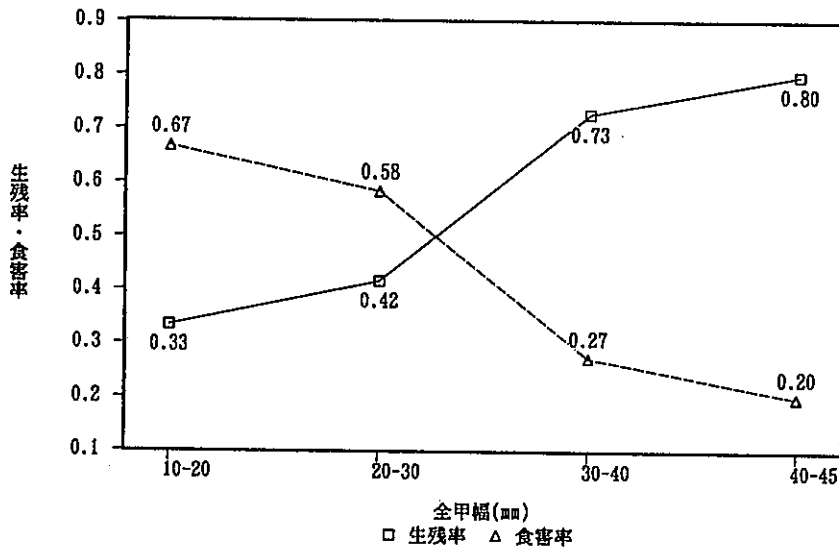


図22 タイワンガザミの全甲幅別生残率・食害率

試験1、試験2の結果よりタイワンガザミは全甲幅30mm未満では、オキナワフグに食害される割合が高くなり、30mm以上では生残る割合が高くなった。今回の試験は、水槽という狭い空間のため、天然海域と異なり、タイワンガザミ稚ガニとオキナワフグの出会う確率が非常に高くなっていたと思われる、そのためオキナワフグの捕食が大きくなった可能性も考えらる。しかしながら、甲幅30mm以下のタイワンガザミの食害される割合が大きかったことから、オキナワフグによる食害状況からみたタイワンガザミの放流サイズは、全甲幅30mm以上を目安にする方が良いと考えられる。

## 要 約

### 要約

1. 平成6年度には栽培漁業センターでタイワンガザミの種苗生産を計14回行い、130万尾の稚ガニ(C1)を取り上げた。
2. 水づくり・残餌密度計数・残餌量計数・投餌量計数・水槽底掃除・換水率調整・ワムシ及びアル